

東風季報

発行
東北風景写真家協会
〒980-0852 仙台市宮城野区榴岡3-8-15
東北カラーデューブ株式会社内
Tel 022-256-2141, Fax 022-256-2142
編集 進藤・阿部

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第37号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

斉藤 友寛先生スライド&トークセミナー 「これから役立つ風景撮影術」開催のご案内

日本風景写真家協会の会長を務めておられます斉藤友寛先生にお話しして今年第2回目のスライド&トークセミナーを開催させていただきます。

日程 11月16日(水)
午後1時に受付開始、1時30分から質問時間も含め約2時間での開催を予定しております。会場は日立システムズホール仙台の3階エッグホール。収容人数は最大90名。参加費は会員1,000円、一般の方は1,500円で、但し新規入会に申し込まれば会員扱いと致します。

セミナー終了後の懇親会については、今回斎藤先生は当日東京にお帰りになりますので、開催は見合わせました。

少し早いのですが費用節



斉藤友寛先生

協会創立10周年・第5回作品展 「美しい日本」開催の結果ご報告

東風協を設立して10年目の今年是一年置きに開催することが出来ました。出展された会員は名誉顧問の竹内敏信先生、顧問の椎名亮介先生を含め59名で敏信先生の全作品1点と椎名先生の全紙作品パネル1点、参加

約の関係でセミナーの開催とのご連絡を頂いております。先生の略歴は1941年東京生まれ、80年に写真家に転向され、以来全国の風景を写し始めました。90年に写真事務所「フォトワーク遊」を設立。大判からデジタルカメラまで駆使して日本全国を撮影しておられます。写真集「日本の風景・春夏秋冬」「同上・秋冬編」「同上・春夏編」を出版。06年と07年で発行。全国合計392カ所630景の画像と的確な交通案内・現地地図、撮影ポイントの現場写真を掲載。ロケハン不要で撮影地点にすぐ立ち、撮影が出来る。優れた内容の写真集です。試みに購入しましたので、先生より「風景を動かして表現してみる」など新しい発想とテクニックによる風景表現を中心に画像を見ながら解説致します。



展示会場の準備は6月30日に行いました。午前中に役員と幹事だけで集まり、展示作品の展示方法と順番、10周年記念のパネル掲示方法等を確認し、高さを揃える為、下に糸を張り付け、吊り下げ用のワイヤーを各展示室の壁面に取り付けました。午後1時に開会式、来場者向け挨拶文の読み、東北カラーデューブ

実施した協会企画撮影会や協賛撮影会、撮影実習セミナーと作品展並びに特別作品展、及びプロの先生をお招きして開催したスライド&トークセミナーの詳細を記したパネル3枚作成し、活動時確認しながら展示。タイムを取り付けました。その後、竹内会長に中央部署のライト照明調整をお願いしました。これも参加会員皆様の協力に寄ります。

他、6月1日付で発行した季刊紙「東風季報」第37号をテーブルに用意、「自由にお持ち下さい」と記した張り紙を置いて、来場された方々にお持ち帰り頂きました。

今回の作品展では隣のギャラリーCにて二科会無数の星を目的に写真部・宮城支部が写真展を同時開催されました。二科会とは会場の申込時から重なり、抽選です。また、別料金が必要ですが、黒部溪谷も併せて開催されました。結果はお互いの来場者に双方の会場の様子を見て貰うことが出来ました。今回はデジタルカメラだけに撮影が少なかったのですが、実践で、当初参加応募者が少なかつたのですが、色んな機会に告知を進め、最終的に参加者は講師の竹内会長と丸山副会長を含め17名でした。9時15分に旭ヶ丘駅改

計画中の協会企画についてのご案内

●前号のご案内いたしました「ホテル立山に泊まる・大迫力の山岳風景・天上のパノラマと星空風景」は募集人員40名に對しては、現在、定員に達していません。最小催行人数30名を目指して、お申し込みください。今年と昨年は西伊豆経由の富士山撮影会を行いました。来年の富士山は久しぶりにダイヤモンド富士の撮影に挑みます。撮影場所は山中湖から日時の沈む時間を狙って撮ります。以前に行った時は当日富士山頂上に雲が懸かると翌日後お天候を見て当初予定の撮影場所を変更してチャレンジし成功。今回は？

●第2回デジタル実習セミナー開催
日時：11月22日(火)
13:00~16:30
場所：ニコプラザ仙台
コミュニティスペース
(仙台市青葉区中央1丁目3-11・アエル29階)
022-715-7490
募集人員：先着8名(講師とマンツーマン対応)
会費：1,000円
(OSはWindowsのXP、7、8、1、10)がおすすめです。お待ち下さい。詳細は現在河北新報トラベルと交渉中です。開催まで時間がありますのでお待ち下さい。詳細決まり次第改めてご案内いたします。

第11回撮影実習セミナー開催のご報告

今年第11回目の撮影実習セミナーを旭ヶ丘にある台原森林公園にて開催しました。今回はデジタルカメラだけに撮影が少なかったのですが、実践で、当初参加応募者が少なかつたのですが、色んな機会に告知を進め、最終的に参加者は講師の竹内会長と丸山副会長を含め17名でした。9時15分に旭ヶ丘駅改

札幌に集合、初めて参加された方も居られ簡単に進め方を説明。午前中の撮影にエッグホールにてPC持参各自出掛けました。公園には近くの小学校の学外実習で、先生に話して許可を頂き撮影しました。樹木の多い広い園内を一周し、元気に撮影を楽しみ参加者も居て、撮影時間が終了。昼食はセミナー会場内のHPに掲載してあります。

お知らせ

★写真コンテスト
上位入選者
フォトコン誌組写真の部
佐藤 登(連続入選)
推薦(7月号)
「雪夜の花嫁道中」
入選(8月号)
「里の野焼き」
第25回シルバークラフト展
準備中
佐々木 かよ
「瞬」
第14回JPA写真公募展
入選
佐々木 かよ
「春を待つ」
大友 悦男
「岩燕」
★会員の所属クラブ写真展開催のご案内
「出会いの喜びⅦ」
当協会の会計監査を担当されている佐々木康照会員が所属している中盤カメラの写真クラブ展です。
開催期間・・・
9月8日(木)～13日(火) 午前10時～午後5時30分(土・日も開催) 場所・・・
富士フィルムフォトサロン 仙台(仙台市宮城野区二十人町99・富士フィルム仙台ビル1階)
佐藤博信先生を顧問として645の中盤フィルムカメラで写した作品の展示です。見応えのある作品ばかりが展示されているので、是非、会員の皆様もお出掛けになって下さい。

「わたし」と「彼」との出会い 齋藤進

「2015年10月中旬、わたし(コンパクトデジタル)は彼に会うことになった。その彼は何時もわたしと一緒に連れて行動した。最近の動きを追って見た。

10月末、木枯らしも吹くころになってきた。彼はわたしを胸に仕舞い込み出かけることになった。

仙台市営地下鉄「旭ヶ丘」駅下車日立システムズホールが彼と初めて出かけることとなった。彼は駅を降り、周りを見渡し、おもむろにわたしを外気に触れさせた。わたしは少し寒さを感じつつ、それでも枯れ木立が印象的だったのでパチリとシャッターを切った。

彼の所作は、今までわたしの兄貴(一眼デジタル)と付き合っていたこともあって、わたしにもなるほどと頷かせるものだった。彼はわたしの付き合いを深めようと、分厚い「取説」を前に兄貴との対応の違いを折々確かめるようにしていた。わたしとしては、迷惑を生じることのないよう丁寧に接して行きたいと思っている。

冬の足音も忍び寄る12月上旬、彼はわたしと兄貴を帯同、バスツアーに乗り込んでいた。目指すは山形県米沢市小白布地区の「柿」をテーマに点在する情景を収めようとするものだった。彼はわたしと兄貴を大事に抱えていた。広がる情景に浸かりながら、昔を思いつつ、わたしと兄貴を通して図柄として抑えようとしていた。その思いを伝える機会に繋がればと。彼はその機会を探していた。

年も改まり、1月東北風景写真家協会の案内でその機会があるのを知った。彼は初めて展示に取り組むことに。このことが彼の創作への気持ちが高める機会となっていた。

3月上旬には、彼はわたしと兄貴と一緒に黒伏を指していた。山肌には雪が残っていた。それでも今年は少ない方だとのこと。彼はわたしと兄貴を伴い広がる景色にフリンダーを覗きシャッターを切っていた。そのシャッター音は心地よく



「早春の泉ヶ岳」

彼の心に響いていた。わたしは自分で領ける情景を彼に届けることができたと考えた。3月中旬には「早春の泉ヶ岳」を収めることが出来た。

わたしは彼と出会ってからは殆んど離れることなく、真近で彼の所作を眺めつつ、大事にしてくれればいいなと思い、彼を見るのだった。彼は今、枕元に置き、大事にしてくれているので、彼の付き合いに応えて行こうと決めている。

大事にしてねと心に秘めながら...。そして、彼もわたしとの出会いを大事にしてくるだろうと思いつつ...。明日もよろしくね...。として休むことに。

PowerShot G9X 兄貴 Canon EOS Kiss Digital X 彼 作者

私のデジタルカメラ体験記 高瀬英雄

私はデジタルカメラに携わって、かれこれ約十年になります。最初はコンパクトカメラを手に入れ、撮影手法はフィルムカメラの経験がありましたので、さほどの戸惑いは感じませんでした。

しかし、撮影後の画像処理過程で、特にPC(パソコン)への画像取り込作業では、マニュアル片手に神経を使ったり作った記憶があります。

その後、カメラを一眼レフに取替えたのを機に、撮影機会も徐々に多くなり、数年後にはサークル活動もはじまりました。所属クラブの撮影会を

はじめ様々な撮影会を体験する中で、所持するカメラが気になりだし、自分の中では生涯の愛機と決めていたニコン機種と決別し、キヤノン機種に乗り換えたのはデジタルカメラを手にしてから5年目の頃でした。その乗り換えきっかけは、撮影画像の彩度感に惹かれたのが理由です。しかし、英断はしたものの、当時所有していたカメラ2台とレンズ8本の機種更改は、年金生活の私にとっては、大きな負担でした。

それでも段階的ながらもこだわりが成就できたことで、一応満足しているところですが、

次は、画像処理ツールとしてのPCに関する体験です。以前、私がWindowsとMacを併用していた時のことです。そのとき使用した外付けハードディスクは両PCの併用可とのことで、使用条件を確認の上で、WindowsまたはMacで処理した画像を同一ディスクに保存していたのですが、ある時期から保存した画像が壊れる現象が頻るようになりました。

しかし、当時この画像破壊の原因は何なのか解明できないまま、カメラの記録メディアの問題な

こんな話、あんな話 第三十四話 「しろ」と、くろ」と、その中間」

「素人」と「玄人」という言葉があります。言葉の意味は理解していると思いますが、あらためて記述すると、素人があることに経験のない人のこと。玄人あることに熟達した人や専門家のこと、とある。

「しろ」と「くろ」なので色の「白」と「黒」を思い浮かびますが、漢字では「素人」「玄人」と書きます。色とは関係ないということなのでしょう。語源は分かりませんが、平安時代には「しろ」と「くろ」は「しろ」と「くろ」と言われていて、「白人」と書かれていたそうです。その後、室町時代には「しろ」と「くろ」は「しろ」と「くろ」と言われなくなりました。「白人」が「素人」になったのは、「素」に「しろい」や「平凡」という意味があったからだとされているようです。「くろ」とも同じように変化して「黒人」と書かれ、「奥深い」を意味する「玄」の漢字があらわれるようになったと言われているようです。

さてそこで、あなたは写真撮影に関して「素人」ですか「玄人」ですか。と問いかけたら、な

「255白」の間は「灰色グレー」です。だから「灰人」グレウトです。素人から玄人までも256階調あったら、あなたは今、何階調くらいですか。もう直ぐ真つ黒の「1」だったら努力の賜ですね。さくら模様の「よくがんばりました!」のハンコを押してあげましょう。それこそ、グレートGreatです。私はまだまだ「100」も切れません。もつともつとガンバロー(二〇一六年九月 丸山慎二)

ストロボ撮影の楽しみ方 氏家芳雄【前篇】

私は、祭りや催行事・花・鳥、更には風景などに被写体を選ばず幅広く、カメラ片手に写真撮影を楽しんで過ごしています。

第二の人生のつもりで始めた趣味の写真ですが、カメラの機能や写真撮影の基礎知識を覚え(自画自賛です)且つ、やっとなり成りました。

一、ブレの防止
二、瞬間光によるストップモーション効果
三、デフライト(白中)シンクロ

一、スロー(低速)シンクロ
二、デフライト(白中)シンクロ



1/2000 F-7.1 ISO 640 ハイスピードシンクロ

ストロボ撮影は、撮影時にシャッター幕が全開になる最速のシャッター速度のことを「同調速度」といい、そのカメラのシャッター幕全開状態となる同調速度以下でなければ使えない。

ストロボ撮影は、撮影時にシャッター幕が全開になる最速のシャッター速度のことを「同調速度」といい、そのカメラのシャッター幕全開状態となる同調速度以下でなければ使えない。

「素人」と「玄人」という言葉があります。言葉の意味は理解していると思いますが、あらためて記述すると、素人があることに経験のない人のこと。玄人あることに熟達した人や専門家のこと、とある。

編集後記

1面は11月に開催します齋藤友寛先生のフライト&トークセミナー案内をトップに創立10周年・第5回作品展「美しい日本」の開催模様。撮影実習セミナーの実施報告、今後の協会活動予定案内等の活動内容中心に記載させて頂きました。

2面記事は齋藤進さん、高瀬英雄さん、氏家芳雄さんに執筆をお願いしました。快くお引き受けいただきました。丸山副会長、氏家さん、高瀬さん、齋藤さん、皆様のご投稿をお待ちいたしております。